レター

シェルティーの尾部にみられた皮角

Caudal Cutaneous Horn in a Shetland sheepdog

小林亮介¹⁾ 臼井玲子²⁾ 代田欣二^{1)*}

¹⁾麻布大学, ²⁾臼井犬猫病院

Ryousuke Kobayashi¹⁾, Reiko Usui²⁾, Kinji Shiota¹⁾

¹⁾Azabu University, ²⁾Usui Veterinary Clinic

皮角は一般に円錐～円筒状の、充実性の隆起した角化性病変で、基部には原因となる増殖性病変をもつことが知られている。犬猫においては稀な病変で、ネコではFeLV感染に関連してパッドに形成されるものが報告されているが、イヌでは記述に乏しい。今回、尾部に長さ約17 mmの皮角を形成した症例を経験したので報告する。

症例は8歳齢のシェルティー(去勢オス)で、尾部背側皮膚に爪様のケラチン質の隆起を認め、これを切除したところ、基部に白色結節を有していた(図1)。病理組織学的に、皮角は層板状、渦巻き状に増生したケラチンの集塊で、一部で核の遺残がみられた。基部の白色結節の病変は漏斗部角化性棘細胞腫(IKA)と診断された(図2)。

犬猫では基部の病変として、ウイルス性乳頭腫、光線性角化症、Bowenoid *in situ* carcinoma、浸潤性扁平上皮癌、Dilated pores、IKAなどが挙げられている。今回の症例における基部の病変は、典型的なIKAであり、尾部に発生したこの腫瘍が特殊な形をとったものと考えた。IKAにおける皮角形成に何が影響するのかわかっていないが、多くのIKAは中央に孔をもつことから、それが大きくカップ状に開口している場合に皮角を形成しやすいのではないかと推測された。

引用文献

- 1) Gross, T.L., Ihrke, P.J., Walder, E.J. and Affolter, V.K.

*連絡先: 代田欣二(麻布大学)

〒229-8501 神奈川県相模原市淵野辺 1-17-71

TEL/FAX 042-769-2093 E-mail: shiota@azabu-u.ac.jp

2005. pp. 562, 619–621. In: Skin Disease of the Dog and Cat, Clinical and Histopathologic Diagnosis, 2nd ed, Blackwell Science Ltd., Oxford.

- 2) Maxie, M.G. 2007. pp. 596–597, 748. In: Jubb, Kennedy, and Palmer's PATHOLOGY OF DOMESTIC ANIMALS vol.1, 5th ed, Elsevier's Health Sciences Rights Department, Philadelphia.

図1 ホルマリン固定後、直径は基部で3 mm、先端で1.5 mmであった。

図2 基部では角化細胞が増殖し、内腔にケラチンをもつシストが散在していた。